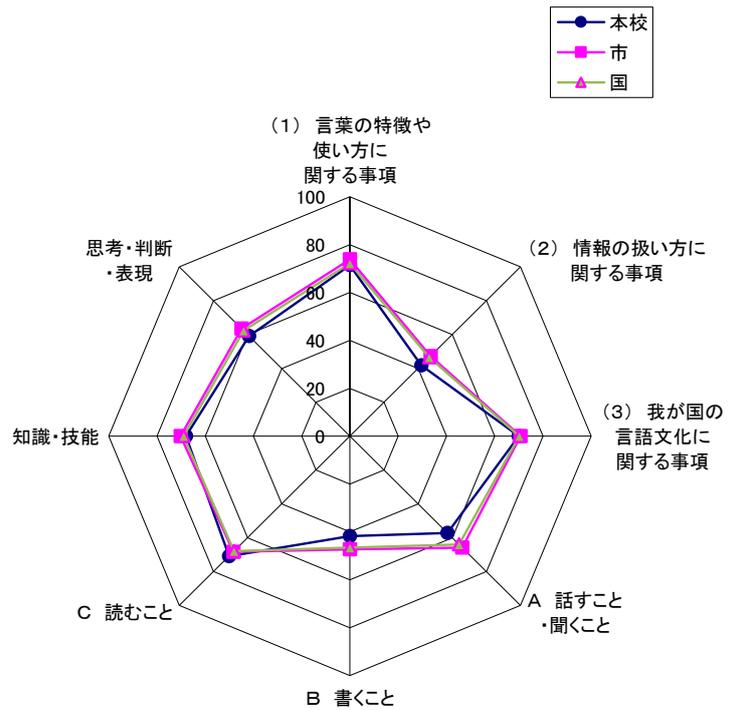


宇都宮市立城山中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	71.4	73.8	72.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	41.8	47.3	46.5
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	70.0	70.7	70.2
	A 話すこと・聞くこと	57.1	65.9	63.9
	B 書くこと	41.8	47.3	46.5
	C 読むこと	70.9	68.3	67.9
観点	知識・技能	68.0	70.2	69.0
	思考・判断・表現	59.2	63.6	62.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	正答率は、市の平均正答率より2.4ポイント、全国の平均正答率から0.8ポイント低い。 ●「助動詞を目的に応じて使う」の理解が低い。 ○「表現の技法について」の理解は市平均よりも高い。	・「助動詞を目的に応じて使う」についてや、文法の既習事項を再度復習することで、理解の定着を図る。 ・「表現の技法について」の理解はおおむねできているので、授業中に、表現技法を利用した短文作りを実施することで、理解の定着を図る。
(2) 情報の扱い方に関する事項	正答率は、市の平均正答率より5.5ポイント、全国の平均正答率より4.7ポイント低い。 ●「自分の考えが伝わる文章になるように表現を工夫する」の理解が低い。	・情報やデータをもとに意見文を書く学習活動を取り入れる。その際、自分の意見を裏付ける情報を取捨選択するという過程を提示し、理解の定着を図る。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	正答率は、市の平均正答率と全国平均正答率とおおむね同じである。 ○「漢字の行書の読みやすい書き方について理解している」が、市平均よりも高い。 ●「行書の特徴についての理解」が、市平均よりも低い。	・行書の特徴について、書写の授業で再度復習し、漢字と仮名のバランスについても、再度指導し、定着を図る。
A 話すこと・聞くこと	正答率は、市の平均正答率より8.8ポイント、全国の平均正答率より6.8ポイント低い。 ○聞き手の関心などを考慮して話を聞くことはおおむねできている。 ●論理の展開に気をつけて聞いたり、自分の考えをわかりやすく伝えるように表現を工夫したりする問題への力が不十分である。	・聞き手の関心などを考慮して話を聞くことはおおむねできているので、今後は ①聞き取りテストを行うこと ②聞き取りテストを行う上で注意すべき項目について学習すること を徹底することで理解を助けるようにする。 ・自分が伝えたい内容を整理し、順序立てて構成する学習内容を取り入れることで、理解を助ける。
B 書くこと	正答率は、市の平均正答率より5.5ポイント、全国の平均正答率より4.7ポイント低い。 ●「自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書く」が市平均より低い。	・情報やデータをもとに、意見文を書く学習内容を取り入れる。自分の意見や考えをまとめ、情報を根拠として、構成を考えさせることを意識して指導し、理解の定着を図る。
C 読むこと	正答率は、市の平均正答率より2.6ポイント、全国の平均正答率より3.0ポイント上回っている。 ○話や場面の展開の読み取りと、場面と描写の結びつきについては、おおむねできている。	・物語文で登場人物の心情を読み取る際に、描写をもとに読み取ることができることを、再度丁寧に指導していく。